

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第8次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

ふりがな	えぬびーおーほうじん ペあれんとさぽーとすてっぷ		
団体名称	NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ		
代表者職名	理事長	ふりがな	あんどう きよこ
		代表者氏名	安藤 希代子 (印)
ふりがな	おかやまけんくらしきつぶうら		
団体住所	岡山県倉敷市		
電話番号		F A X	同左
設立年もしくは活動年数	2012 年 4 月 1 日		
スタッフ数	有給スタッフ 10 名・無報酬スタッフ 1 名・ボランティア等 5～10 名		
団体HP(あれば)	https://parent-support-step.jimdo.com		
FBページ(あれば)	https://www.facebook.com/peasapo		
CANPAN登録	なし・ <input checked="" type="radio"/> (星 5 つ) 【団体ID: 1345726788】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	理事長	ふりがな	あんどう きよこ
		担当者氏名	安藤 希代子
郵送物送付先住所	岡山県倉敷市		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

申請事業の内容

事業種類・内容 該当する活動に○をつけてください。	<input checked="" type="radio"/> 1. 災害支援・復興活動(真備エリア) 2. 災害支援・復興活動(県内各地)
事業名 (もしくは事業概要)	西日本豪雨災害復興支援 被災地の障がい児の保護者支援プロジェクト

活動（予定）期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 平成 32 年 3 月 31 日
活動（予定）場所	真備公民館箭田分館・障害者就労継続支援 B 型 「まびの道」
受益者数	直接受益者（まきび支援学校保護者および地域の障害児の保護者 300 名以上）
事業の必要性（背景）と目指すゴール（目指す状況）	
<p><事業の背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>真備地域には県立の支援学校がありましたが、学校が被災し使えなくなったことにより、そこに通っていた約 350 名の児童・生徒と家族が、様々な影響を受けました。障害のある子どもたちは元々環境変化に敏感なため、人並み以上の高いストレスを感じるようになりました。また、真備在住の障がい児のいる家庭で避難所に避難した人はほとんどいなかったこと、支援者に支援を求めてくることもなく、発災後しばらくは家族だけで困難な状況に対処していたという事実があり、日ごろから「相談」ができる関係性が地域で作れていなかったことを露呈することとなりました。</u> <p><必要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害のある子の場合、過剰なストレスで<u>状態が悪くなると、長引きやすい傾向</u>があります。その世話をする<u>保護者も、子どもの状態の悪化に戸惑い対応に困る</u>、先々のことに不安を感じてあれこれ考えてしまう等、ストレスフルな状況になります。こうした状況を放置すると、子どもだけでなく<u>家族が共倒れになる危険性</u>が高くなります。 <p><目指すゴール></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ストレスフルな状況にある被災地域の障がい児の保護者を主な対象として、<u>しっかりと話を聞いて共感し寄り添い、ともに活動をし距離を近づけ関係を深め、「被災者対支援者」ではなく「人対人」としての信頼関係を構築していく場を継続して持つことにより、被災地域の障害児の保護者が安心して子育てできる日常を取り戻していただくだけでなく、非常時に「相談してもらえる」「SOS を発信してもらえる」ような信頼関係のある地域づくりを目指します。</u> 	
事業の実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ● 月に 2 回程度、平日 1 回・休日 1 回、真備の施設を会場として、保護者の居場所づくりを行います。 ● 平日は午後 1 時から 4 時にカフェタイムを提供。休日は 12 時から簡単なランチの提供を行います。弊法人が日ごろから心掛けている、手作りにこだわった優しい味の料理やスイーツを食べることで、参加者は心身が癒されると共に、<u>みんなで同じ料理を食べる（“同じ釜の飯を食う”）ことによる連帯感を持つ</u>こともできます。 ● 岡山県の児童相談所・発達障害者支援センター・倉敷市総合両区相談センター「ゆめぱる」・障害福祉課から専門の職員を派遣してもらい、カフェ参加者に「相談ワンストップの場」としても利用していただける予定です。 <ul style="list-style-type: none"> ● 真備のカフェでは、保護者に負担をかけすぎないよう、緩やかなプログラムで、支援者・参加者の区別なく連帯感を築いていけるような企画を提供していきます。<u>支援者も参加者も共に同じ活動を行い、連帯感を深めます。</u> ● 毎回、カフェ終了後に参加した支援者・専門職とともに振り返りを行い、参加者一人一人について気づいたことや次回のカフェにつなげる提案などについて<u>情報共有し、きめ細やかな行き届いた支援</u>を目指します。 ● 被災された方は季節の行事を祝う余裕もなかなか持てないと考えられるので、<u>季節感を感じられる催しも取り入れながら、楽しんでいただけるよう工夫を凝らして</u>いきます。 ● 私たちだけが被災された方のケアにあたらうとするのではなく、私たちの活動を通じて多くの方が真備に心を寄せ、実際に被災した方々と手をつないでいきかけになれるよう、<u>参加者を大事にしつつも、人と人が繋がっていける場として役割を果たしていけるように運営</u>していきます。 	
事業の実施体制	
<p>NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷのスタッフ…毎回 3～4 名</p> <p><業務上派遣される専門家>倉敷市障害福祉課より 1 名</p> <p>倉敷市総合療育相談センターゆめぱるより 1 名</p> <p>児童相談所より 1 名</p>	

岡山県発達障害者支援センターより1名

倉敷市教育委員会より1名

<ボランティア参加や企画の講師>

アロマセラピスト1名

企画ごとの講師、毎回1～2名

その他、ボランティア有志毎回2～3名。

以上のメンバーが協力しあって、居場所を運営していきます。真備ボラセン・災害支援ネットワークとの連携も密にしていきます。

事業実施後の展望

- 助成期間終了後も2～3年間、真備地域において保護者の居場所の提供を行う予定です。
- 今回の助成を足がかりにして活動の体制を軌道に乗せ、その後も活動を継続させていくために、寄付金を募る等、財源確保に努めます。
- 数年後には現在倉敷市粒浦を拠点としている法人の活動拠点をもうひとつ真備にも作り、真備での保護者支援も「当たり前」のものとして定着させていくことによって、真備を「発災以前よりも、安心できる、住みたい街、帰りたい街」にしていくことに貢献したいと考えています。

その他

- 変化への免疫が乏しく調子を崩しやすい子どもを抱える家庭には、より多くのあたたかなまなざしとより多くの支援の手が必要となります。
- 専門家によると、障害のある子の場合、生活がある程度安定してきてから調子を崩す例も多く、崩れると元々持つ障害特性が際立って強くなるために、家族は共に生活しづらくなるようです。しかもいったん崩れると普通の子よりも回復に長い時間を要するのも特徴的です。
- 障害児家庭が負の連鎖により潰れてしまわないように、迅速かつ長期にわたる支援が求められます。
- 今回のカフェには希望により被災地域以外からの保護者（障がいのある子や発達に不安のある子の保護者）も受け入れます。「被災者のためだけ」というより、居場所カフェを開催することが真備に人が集まるきっかけになること、居場所カフェの場において「悩んでいるのは自分だけではない、自分はひとりじゃない」と参加者みんなに実感してもらうことにより、被災した・しないの垣根を自然に取っていくことが、被災された方へのエンパワメントにもなると考えられるからです。